



北陸地方整備局
湯沢砂防事務所
記者発表資料

資料
取扱

資料の配布をもって解禁
平成29年11月10日

～湯沢砂防直轄事業化から80周年、地域と連携し防災体制を再確認～

「大規模土砂災害を想定した合同防災訓練」 を実施します

湯沢砂防事務所は、昭和10年の魚沼大水害を契機に、昭和12年度より魚野川流域にて直轄砂防事業を開始し、今年で80年になります。

また、熊本地震災害、九州北部豪雨など、近年全国において大規模な土砂災害が多発しています。湯沢砂防事務所管内においても、平成16年中越地震では、芋川流域で河道閉塞が多発するなどの大規模土砂災害が発生し、災害復旧に尽力したところです。

このような大規模土砂災害の発生をふまえ、直轄事業80周年の節目にさらなる地域の安全・安心の向上を目指し、国土交通省湯沢砂防事務所は、新潟県・南魚沼市と協同し、合同防災訓練を実施します。

本訓練は、豪雨を誘因とした河道閉塞の発生、及び複数の土砂災害が発生したことを想定し、国・県・地元自治体の各機関がそれぞれの対応を確認し、課題の把握と今後の危機管理対応能力の向上を図ることを目的に実施します。

日時：平成29年11月14日(火) 13:00～17:00(予定)
みなみうおぬま やまと
場所：南魚沼市役所 大和庁舎 3階会議室(新潟県南魚沼市浦佐1188番地2)
参加団体：南魚沼市、新潟県土木部砂防課、南魚沼地域振興局
国土交通省北陸地方整備局、湯沢砂防事務所
湯沢砂防スペシャルエンジニア(順不同)
参加者数：約50名
訓練概要：訓練は「学習型」で行います。詳細は別紙のとおり

<その他・注意事項>

- ◇訓練は公開で行います。
- ◇当日取材をされる方は、下記問い合わせ先までご連絡をください。

お問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所 副所長(技)

ふくだ みつお
福田 光生(内204)

調査課長
きたざわ しげき
北沢 茂樹 (内351)

[電話] 025-784-2263(代) [FAX] 025-784-1729(代)

1. 訓練の目的

近年の大規模土砂災害の多発や、それに対する各種法整備状況を踏まえ、大規模土砂災害発災時に関係機関が相互に協力し迅速かつ円滑に対応する能力を高めるため、湯沢砂防事務所、新潟県、南魚沼市の各防災担当者が一堂に会して、大規模土砂災害が発生した場合の対応行動について確認・検証することを目的とする。

2. 訓練概要

①日時:平成29年11月14日(火) 13:00～17:00(予定)

日程概要 13:00～13:30 集合・受付
13:30～13:45 開会・挨拶・訓練の進め方確認
13:45～16:40 学習型訓練(休憩時間含む)
16:40～17:00 意見交換・講評・閉会

②訓練内容

(1)被災想定:梅雨前線に伴う豪雨(平成23年新潟福島豪雨と同じ降雨規模)により、南魚沼市の各地域で同時多発的に土砂災害(土石流、河道閉塞)が発生することを想定。

(2)訓練形式:学習型訓練

司会進行者が災害シナリオに沿って質問を投げかけ、訓練参加者に回答を求める質疑応答型の訓練。司会進行者の状況説明(シナリオ進行)を聞くことによって、参加者全員が災害対応行動等の流れを共有・理解できるのが特徴です。

大規模土砂災害とは、

地震・豪雨・火山噴火等による土砂災害であって、①大規模な土石流、地すべり等、②天然ダム(河道閉塞)のように現象が進行性のもの、③同時多発的に発生する土砂災害、④火山噴火による火砕流・溶岩流・火山泥流等の大規模土砂流出やそれに伴い発生する大規模な天然ダムなど、対応に高度な技術を要するため通常の土砂災害に対する体制では限界があり、社会的な影響が甚大又は被害が広範囲に及ぶおそれがあるものなど国の役割が重要なものをいう

大規模土砂災害危機管理計画(国土交通省砂防部;H20.3.4)より



※平成26年度に長野県栄村にて実施した訓練状況

湯沢砂防管内では、2回目の訓練となります。

訓練手法(学習型防災訓練)について

進 行 者

訓練参加の各組織をひとつの災害対策本部あるいは支部と見立て、それぞれに質問する。回答者は特定せず、1名が組織を代表して、その組織の行動を回答する。

××という機関から、「〇〇地区で大規模な崩壊が発生し、△△の状態となっている」との報告が入りました。この情報を受けて、あなた方の組織では、どのような行動をとりますか？



質問

回答

訓練参加者

質問内容に応じて、参加組織の中で回答者を決めて発表する。回答者は与えられた設問に対して、自身の所属組織の対応内容を回答する。

私たちの組織では、〇〇を第一に考え、□□を行います。併せて、この情報を△△という機関に連絡します。



訓練参加者
状況付与を踏まえた
質問への「回答」



進行者(事務局)
状況付与に応じた
さまざまな「質問」

進行者からの『質問』と訓練参加者の『回答』を【一問一答方式】で繰り返し行い、訓練を進行する

※他自治体(事務所)で実施したときの例

<訓練の特徴>

- 進行者が重要な事項の説明や確認を行うことから、時間軸にとらわれず**重要な場面等を切り出す**ことができるため、参加者の理解度、災害対応能力向上の向上が図れる。
- 参加機関の回答を参加者全員が聞くため、**他機関がどのような対応を行うのか理解**でき、関係機関の役割や対応の流れが参加者全員で確認できる。
- 進行者がその都度状況説明を行うため、**見学者も含めた全員が同じ状況を認識・共有、理解**でき、見学者にも訓練状況を理解することができる。